

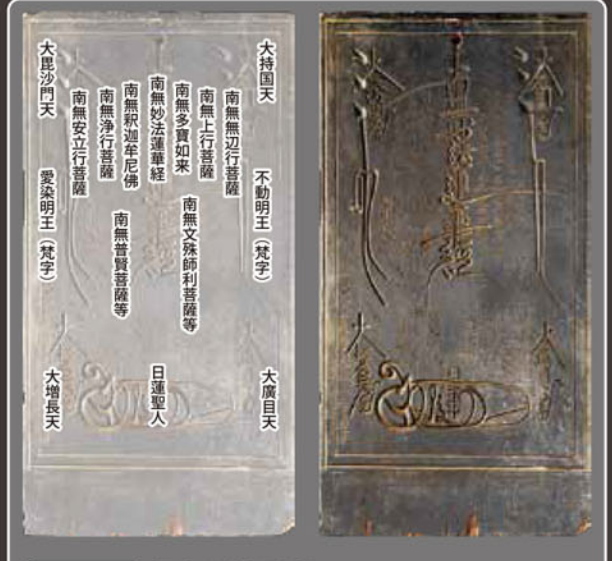


法華經の世界

伝えたい想い —長遠寺本堂の仏たち—



法華曼陀羅の例
身延山21世 日乾筆。
慶長16年(1611)市川家(千葉県)蔵



市指定 板本尊(本重寺)
弘安5年(1282)に日蓮聖人が弟子の日興に授与したものと
同様式のものを書し彫ったもの。



立体化



長遠寺本堂 (鏡中条)



薬師經の場合
薬師如来及び日光菩薩、月光菩薩、十二神将像(清源寺)

法華經以外でも、お経の世界を表現したものとして、たとえば薬師經(薬師瑠璃光如来本願功德經)の世界があります。写真の薬師如来には、日光菩薩、月光菩薩が伴われ、周りを薬師經を信じる人々を救うといわれる十二神将が囲みます。これもありがたいお経の世界の物語を立体化した一例といえます。

総本山、身延山久遠寺に地理的に近いこともあり、現在南アルプス市内にあるお寺のうち、実に約四割のお寺が日蓮宗のお寺で、最も数の多い曹洞宗に次ぐ寺院数を数えます。

日蓮宗のお寺では一般に、本堂に題目塔(南無妙法蓮華經と記された塔)をはさんで、釈迦如来、多宝如来坐像が安置され、その前方に日蓮聖人坐像を安置し、これらの左右に四菩薩像、文殊、普賢菩薩像、四天王像といった、法華經(妙法蓮華經)に登場する仏様たちが配され、題目塔を中心としたこれら仏様たちによって法華經というお経の世界が表現されています。

上に示したのは、日蓮宗の触頭中三ヶ寺※のひとつに数えられる若草地区鏡中条の長遠寺の本堂です。安置される仏様たちは、江戸時代中期(享保年間一七六〇一七三五)の作。圧倒的な迫力で私たちに迫ります。

実はこの仏様たちが並ぶお姿は、宗祖日蓮聖人が法華經に登場する仏様たちを表した法華曼陀羅(大曼陀羅御本尊)が、後に立体化されたものといわれています。法華曼陀羅は、中央の題目から長く延びた線を描くことから髻曼陀羅とも呼ばれますが、そこに描かれた仏様たちの形を、実際に立体化して配置してみせることにより、人々にお経の世界をより分りやすく理解してもらおうと考えられたものといえます。

長遠寺の仏様たちの規模は市内最大級といえますが、それぞれの日蓮宗のお寺にもそれぞれの仏様がいらつしゃいます。檀家の皆さんは、あらためてご自分のお寺の本堂の仏様たちに逢いに出かけて見てはいかがでしょう。また、市内には様々な信仰のかたちがあり、宗派それぞれに仏様がいらつしゃいます。いずれも地域の人々によって守り伝えられてきた大切な文化財ということが出来ます。

写真/文 文化財課

※ 甲斐国内で総本山である身延山久遠寺に次ぐ格式を持つ寺院。他に上中之瀬の妙光寺、甲府市の蓮光寺。かつて久遠寺から発せられたお触れは、触頭寺院を通して各末寺に伝えられた。